

令和も秋田ふるさと村へGO！

県内外から年間65万人



栗津 尚悦

(株式会社秋田ふるさと村 代表取締役社長)

■開村25周年

当社が管理運営している秋田ふるさと村が秋田の観光文化の拠点として県民の大きな期待を背負い、横手の風光明媚な丘陵にオープンしたのは平成6年4月である。今年で25周年を迎えた。

オープン初年度は63万人の入場があったものの、その後入場者数が激減し、平成10年度には25万人弱にまで落ち込んだ。しかしながら、11年度に入村料を無料化して以降はV字回復を図ることができ、紙面の都合上、途中経過は割愛するが、お陰様で昨年8月には累計入場者数1,500万人を達成した。



【1,500万人達成セレモニー(平成30年8月11日)】

四半世紀を経た、そして新たな時代「令和」を迎えたこのタイミングで、本稿により、多くの方々に改めてふるさと村を知っていただくのは幸いなことである。以下、「営業」も兼ねて「ふるさと村の今」を紹介させていただきたい。



【ふるさと村25周年のロゴ】

■県内外から年間65万人

平成最後の30年度も県内外から大勢のお客様にお越しいただき、年間入場者数は65万人を記録した。この数字は基本的にゲートカウントによるものであるが、飲食・物販・アトラクション等のレジカウント(主な施設の延利用者数)では、別表のとおり93万人となる。

いずれにしても、多くの皆様の御愛顧、そして県や地域の御支援により、今なお県内の観光施設としてはトップクラスの集客数を維持している。

平成30年度の主な施設の利用者数

(単位：人)

ワンダーキャッスル	123,198
星空探険館スペースシア(プラネタリウム)	44,893
マックストレイン(自動車型連結バス) ※4月中旬～11月中旬運行	35,278
ドーム劇場	130,897
工芸工房	23,613
ふるさと市場(お土産・軽食)	318,332
ふるさと料理館	89,705
お休み処鳥海(イベント利用のみ)	12,882
県立近代美術館	145,711
合計	931,396

■多彩なコンテンツ、近い・広い、全天候型

ふるさと村には、前記施設のほか秋田の民芸品・工芸品が揃う工芸展示館や野外大型遊具広場等もあり、この「見る、食べる、遊ぶ」というコンテンツの多彩さが観光文化複合型テーマパークであるふるさと村の最大のアドバンテージである。ワンストップで、イベントの利用を含めお客様に思い思いのコースで楽しい時間を過ごしていただいている。

高速道路の横手インターに近く、県外からのアクセスも至便であり、敷地内は東京ドーム4個分の広さで、無料駐車場は3千台分を有する。屋内はもとより野外の彫刻を楽しんだり、芝生でお弁当を広げたり、自然を満喫しながらゆっくり過ごすことができる。全施設が回廊でつながっており、雨天時も安心である。

近いといえば、角館、大曲の花火、横手のかまくら、増田の内蔵やまんが美術館（今年5月1日リニューアルオープン）といった魅力的な観光資源にも近接し、実際これらを含むコースのツアーも人気となっている。

■個人客の4割近く、団体客の8割は県外から

当社の独自調査（GWや夏休み、土日・祝日といった繁忙期の駐車場の車のナンバー調査）によれば、個人客の4割近くが県外客となっており、うち秋田県以外の東北が3割（最多は岩手県の15%）を占める。

昨年度の入場者65万人のうち13%に当たる8万人弱は団体客であり、別表のとおりその8割が県外客である。うち最多は大阪府からであり、東京都、岩手県、宮城県、福島県、インバウンド等と続き、40以上の都道府県・国からお越しいただいている。また、団体客の7割はエージェントの募集・手配によるツアー客であり、他は学校・幼保や一般の団体となっている。団体客はほぼ毎日のようにお越しいただいており、多いときは1日2千人超のお客様をお迎えすることもある。

国内の団体旅行マーケットは、いずれ縮小していくと見られているが、特に県外からの団体客のお食事・お土産購入等の消費は大きく、その御利用は経営面でもありがたい。

引き続き、提携すべきエージェントの開発、近隣観光地や宿泊施設との連携強化、食事を含めた受入コンテンツの磨き上げなど、団体誘客にも力を入れていく。

秋田県	15,721	福岡県	3,312
大阪府	12,324	山形県	3,143
東京都	11,557	愛知県	2,353
岩手県	9,094	青森県	1,750
宮城県	5,443	岡山県	1,035
福島県	5,247	北海道	767
インバウンド	4,312	その他	3,750
合 計		79,808	



【秋田ふるさと村全景】

■インバウンド誘客に注力

昨年4月には、J N T O（日本政府観光局）の外国人観光案内所の認定を受け、インバウンドの受入態勢を強化している。東日本大震災前は多いときで香港等を中心に1万人超の来村があったことからすると、絶対数としては物足りないが、エージェントの視察旅行受入や商談会参加の効果等で、ここ1・2年インバウンドは急増している。昨年度は前記別表のとおり、団体客のみで約4,300人となっており、うち台湾が3,400人と圧倒的に多く、香港、中国、米国等と続く。食事やショッピングのほか、工芸、冬の敷地内のかまくらや雪のスロープ等の体験も行われており、積もった雪の中に体ごと突っ込み、雪まみれになって大はしゃぎする台湾のお客様もよく見かける

今春からの秋田空港の台湾定期チャーター便の通年化を契機に、社内に横断的な「インバウンド誘客プロジェクトチーム（P T）」を設置した。このP Tを中心にして、現地でのエージェントへのセールスや魅力的な商品開発等に一層力を入れるほか、地元自治体や県内外の観光地との連携も強化していくことにしている。

既に今年4月・5月の台湾客の来村は例年に比べ多く、更なる誘客を期待している。



【台湾からのお客様の「みそたんぼづくり」】

■ドーム劇場のマルチ展開

ドーム劇場はアリーナ720㎡（他にステージ220㎡）、高さ30m、客席数997席の圧倒的大空間である。客席は可動型で多彩なレイアウトが可能であり、シアター形式でコンサートやミュージカル、コンベンション、フラット形式で体験型イベントや展示会、パーティなど様々なシーンに活用されている。

間口19m、高さ9mの大可動壁に8～10トンクラスの大型運搬車を直付けし、その開閉により大型機材でもストレスなく搬入・搬出できる。このこと自体も利用者からは好評である。また、可動壁を開け放ち、ステージと屋外の広場が一体となった演出もできる。

今年2月にはドーム劇場で、東京キャラバン（東京都等主催の2020東京オリンピック・パラリンピックの文化リーディングプロジェクト）として、演出家で俳優の野田秀樹氏総監修のもと、男鹿のナマハゲや竿燈を含めた多様なアーティストが混流するパフォーマンスが展開され、多くの観客を魅了した。キャラバン関係者からは「秋田にこんなユニークな劇場があったとは」という驚きの声も聞かれた。

また今年の夏は、当社と地元の新聞社・テレビ局とがコラボし、51日間にわたり体感型の大型デジタルアートイベントを展開予定である。これもまた、ドーム劇場の特異な活用例となる。乞う御期待を。

このように、ドーム劇場はふるさと村のカルチャーシーンを演出するメインの施設となっている。営業のチャンネルの多様化や企画持込型の取組み強化を図るなどして、貸館利用の促進にも努めており、この大空間の年間稼働率向上がふるさと村の集客の大きなポイントになっている。



【左上から時計回りにコンサート、洋ラン展、パーティ、車の展示会】



【あきたYOSAKOIキッズのフィナーレ
(ステージと屋外の広場を一体活用)】

コンパクトながら畳・イステーブル両エリアのある「お休み処鳥海」でも催しが行われることがあり、屋外の広場や駐車場では展示会や物産産直市、屋台やガーデンパーティなど、屋内外の様々な施設を多くの団体、企業に御利用いただいている。

■多彩なエンターテイメント

直径23mで271席を有する東北最大級のプラネタリウム(星空探険館スペースシア)、敷地内を15分ほどで周遊し、小旅行気分を味わえる汽車型連結バス(昨秋、新車両のマックストレインを導入)、大型アスレチックやトリックアートのあるワンダーキャッスルも好評である。

県立近代美術館は県の直営であり、毎年度収

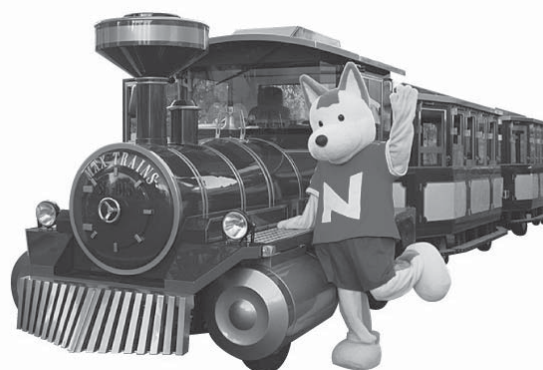
蔵品によるコレクション展のほか、季節に応じて魅力的な大型の特別展が開催されている。今後もふるさと村全体の更なる賑わいに向けて、美術館との連携を一層強化していく。



【東北最大級のプラネタリウム
「星空探険館スペースシア」】



【大型アスレチックやトリックアートのある
「ワンダーキャッスル」】



【人気急上昇中の新車両「マックストレイン」】

■食事席は400席、お土産売場は県内最大級
館内には横手焼きそばや十文字ラーメン、スイーツなど、ご当地グルメを提供する軽食コーナーがあるほか、料理館には稲庭うどんの老舗

「佐藤養助」、県産や旬の食材にこだわる当社直営店「味処みのり」が入っており、館内全体の食事総席数は約400席となっている。お土産売場は県内最大級で、商品総数は約1万点と推定され、秋田のものなら何でも揃っている。

また、桜皮細工等の秋田の工芸、七宝焼き等のホビー・クラフト系を手づくり体験できる工芸工房も人気となっている。



【県産食材にこだわったレストラン「味処みのり」】



【県内最大級のお土産売場】



【工芸工房での手づくり体験】

このように、ふるさと村では様々なアトラクションや物販・飲食、体験やイベントが展開されており、ふるさと村というフィールドでの、テナント(18店舗)を含めた年間総売上(お客様による消費額であり、本稿末尾の「会社概要」

にある当社の年商とは異なる)は平成30年度で8億5千万円ほどとなっている。

■新時代に向けて

ふるさと村は、東北のテーマパークの中で、口コミ人気ランキングでは「トリップアドバイザー」で2位(令和元年5月18日現在)となるなど、一定の評価をいただいている。また、経営面ではコンスタントに経常利益を確保できるビジネスモデルが定着している。

しかしながら、人口減少や少子高齢化、情報化や国際化の進展、類似の施設・業態との競合、頻発する異常気象や自然災害など、ふるさと村や当社の経営を取り巻く環境は激変している。施設の設置者たる秋田県の財政も縮小の一途である。

こうした中でふるさと村が秋田の観光・文化の発信拠点という自らの命題を踏まえつつ、他との差別化を図り、広く利用者に繰り返し選ばれていくためにはどうあるべきか。ふるさと村運営のプロ集団である社員と日々議論を重ねている。そのベースになるものとして、長期目標70万人の集客を念頭に置いた「秋田ふるさと村ステップアップビジョン」があり、コストや人員等の現実的な制約も踏まえつつ、できるものから実行に移し、PDCAを早く回している。

いずれにしても、「何でもある」という売りに甘んじ、現況に多少の工夫を施すだけの守りに入ってはいは、持続的な発展は望めない。アンテナを高く張り、耳に痛い外からの御指摘も真摯に受け止め、そして県をはじめ様々な分野の方々と緊密に連携しながら、令和という新時代においても、秋田の観光・文化の発信拠点、人々の交流拠点として「秋田の元気」に寄与していきたい。

■賑わいとお客様の笑顔に感謝

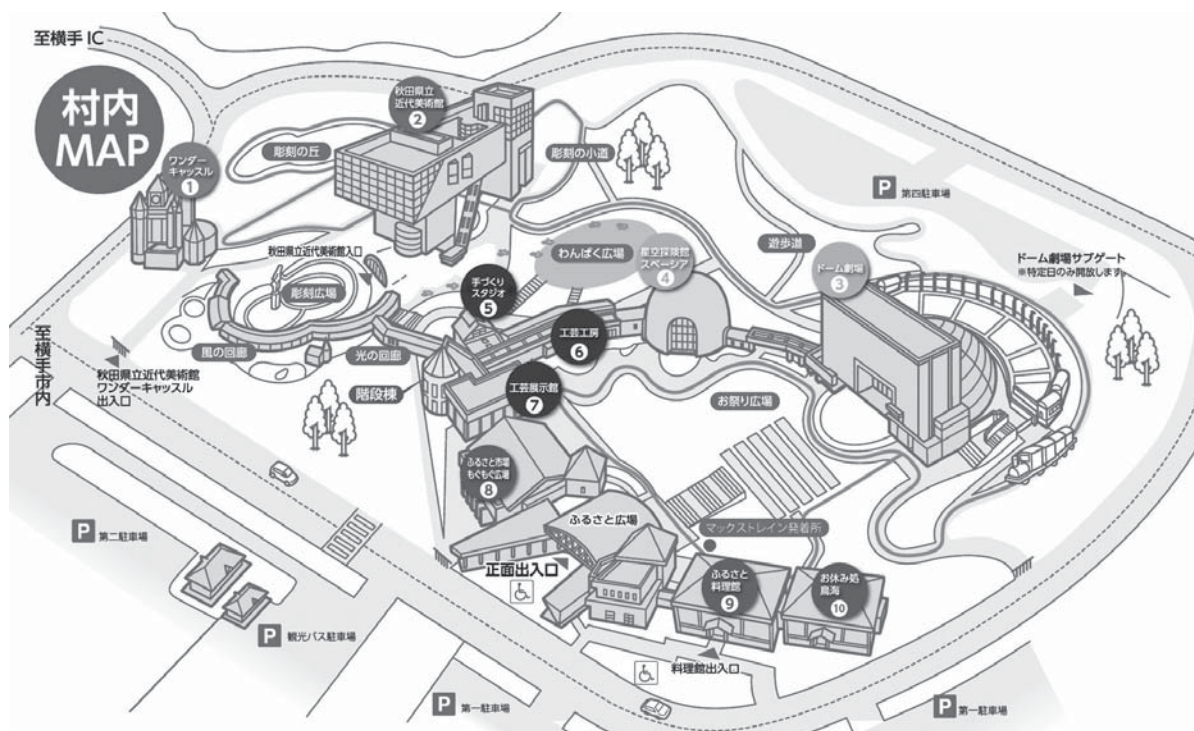
本稿執筆を終えたのはちょうどGW明けである。GWは未踏の10連休ということで、当初は集客アップを期待しつつも一抹の不安があったが、動物ふれあいイベントの訴求力を高めたこと等により、期間中は昨年(4月27日～5月6日)を1万2千人近く上回る約9万7千人の賑わいとなった。さすがの広い駐車場も連日満車状態だった。

平成から令和につながる賑わいと大勢のお客

様の笑顔に改めて感謝である。

■思索の道

最後に、以下に村内MAPを紹介させていただく。敷地内は私の施設巡回兼ウォーキングのコースでもある。ふるさと村や当社の経営の在り様に思いを馳せながら、咲き乱れる草花の小径をひたすら歩く。私はこれをひそかに「思索の道」と名付けている。本稿をお読みの皆様もどうぞお試しあれ。



会社概要

1 会社名	株式会社秋田ふるさと村	6 U R L	http://www.akitafurusatomura.co.jp
2 代表者名	代表取締役社長 粟津 尚悦	7 創 業	平成5年5月18日
3 所在地	〒013-0064 横手市赤坂字富ヶ沢62-46	8 資 本 金	4億9,500万円
4 T E L	0182-33-8800	9 年 商	5億9,665万円(平成31年3月期)
5 F A X	0182-33-8889	10 従 業 員 数	31名 (平成31年3月末)
		11 事 業 内 容	秋田ふるさと村の企画運営及び管理等
		12 社 是	地域とともに築く秋田の元気